

# 高知県長期漁海況予報

## 2026年上半期の漁況・海況の予報

2026年1月発行 高知県水産試験場

このたび「令和7年度第2回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報会議」が開催され、国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所、高知県、関係都道府県等による最新の調査結果から、2026年1～6月の期間についての長期漁海況予報が作成されました。高知県関係を中心に、その概要をお知らせします。

### 予報の概要

#### 海況（1月～6月）

黒潮：土佐湾沖の黒潮は、接岸傾向で推移するものの、小蛇行の東進に伴い、一時的に離岸傾向となる。

沿岸水温：土佐湾の沿岸表層水温は、1月から3月は「平年並」～「やや高め」で推移する。

#### 漁況（1月～6月）

ゴマサバ（立縄）：前年並、平年を下回る

マアジ：前年を上回る

マイワシ：前年を上回る

カタクチイワシ：前年を下回る

ウルメイワシ：前年を上回る

\*詳しい内容については次ページ以下をご覧ください。

## 海 態

【海況の経過 (2025年7月～2025年12月)】

### 1 黒潮

潮岬以東の黒潮流型は、C型流路で推移し、その後、B型流路が継続しました。

足摺岬沖の黒潮流軸は、7月上旬～8月下旬にかけて離岸距離20～145マイルで「接岸」～「著しく離岸」で推移しましたが、9月上旬以降は、離岸距離5～15マイルで「接岸」で推移しました。

室戸岬沖では、7月上旬～中旬にかけて離岸距離10～15マイルで「接岸」で推移しましたが、小蛇行の東進により、7月下旬から8月中旬にかけて離岸距離65～110マイルで「著しく離岸」で推移しました。その後、接岸傾向に転じ、8月下旬以降は、離岸距離5～30マイルで「やや離岸」～「接岸」で推移しました(図1, 2、表1)。

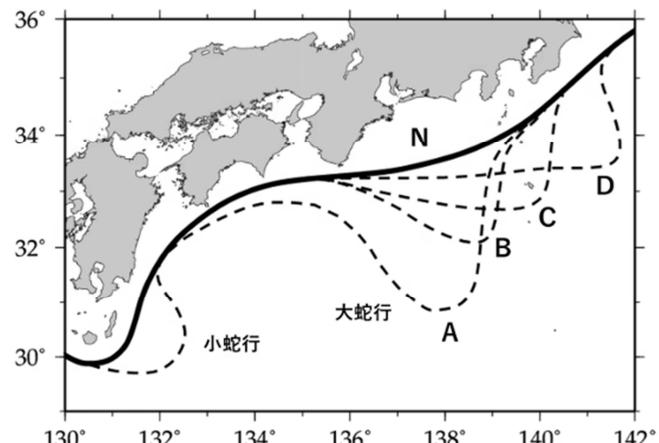


図1 黒潮の流路パターン

(2025年度第2回太平洋いわし類・マアジ・

さば類長期漁海況予報を引用)

表1 黒潮流軸位置階級区分

階級区分	範囲(マイル)
接 岸	<25
やや離岸	25≤、<45
かなり離岸	45≤、<65
著しく離岸	65≤

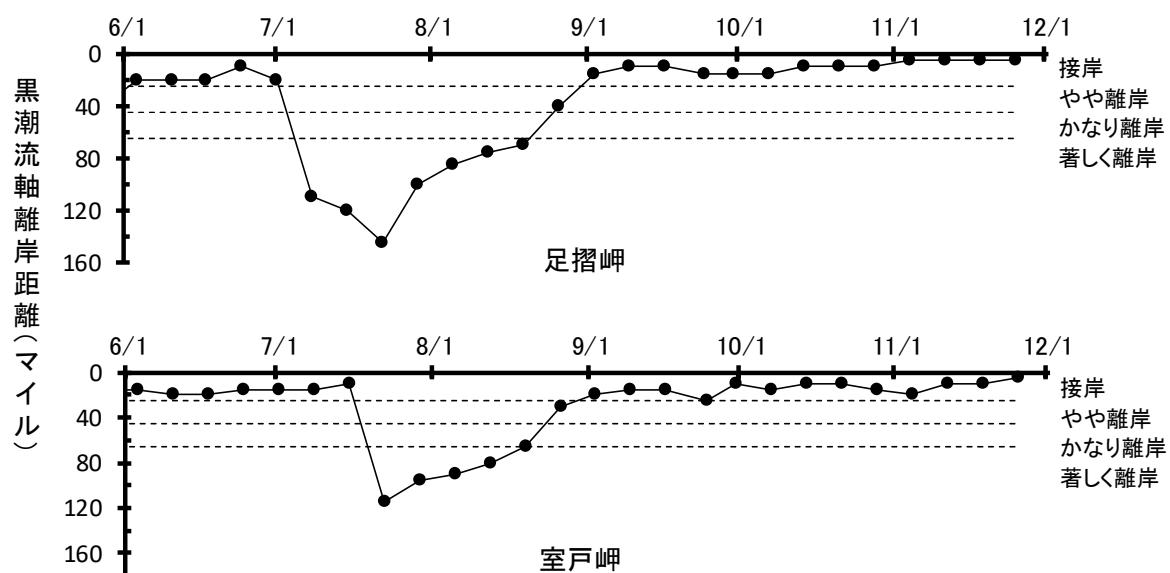


図2 足摺岬及び室戸岬からの黒潮流軸離岸距離 (高知県漁海況速報より)  
\*流軸離岸距離は、正南(S)方向

## 2 沿岸海況

沿岸定線調査によると、2025年7月の土佐湾沿岸水温は、水深10~20m、50~100m、200mで「平年並」、水深30mで「やや低め」、水深0m、125~175mで「やや高め」~「かなり高め」でした。

8月は、水深0m、20m、100~150mで「平年並」、水深30~75mで「やや低め」~「かなり低め」、水深175~200mで「やや高め」、水深10mで「かなり高め」でした。

9月は、水深0mで「やや高め」、水深10m、175~200mで「平年並」、水深20~150mで「かなり低め」~「著しく低め」でした。

10月は、水深0~20mで「やや高め」~「かなり高め」、水深30mで「平年並」、水深50~200mで「やや低め」~「著しく低め」でした。

11月は、水深0~150mで「やや高め」~「著しく高め」、水深200mで「やや低め」、水深175mで「平年並」でした。

12月は、水深0~75mで「かなり高め」、水深100m、175mで「平年並」、水深125m、200mで「やや低め」、水深150mで「かなり低め」でした（図3、表2, 3, 4, 5）。

表2 土佐湾水温平年偏差の階級区分

記号	呼称・内容	偏差範囲
+++	著しく高め	2.2°C以上
++	かなり高め	1.3~2.2°C
+	やや高め	0.6~1.3°C
+ -	平年並(+基調)	0.0~0.6°C
---	著しく低め	-2.2°C以下
--	かなり低め	-1.3~-2.2°C
-	やや低め	-0.6~-1.3°C
- +	平年並(-基調)	0.0~-0.6°C

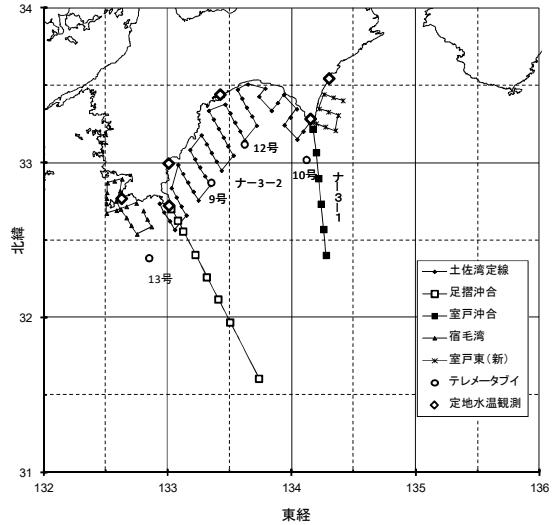


図3 高知県沿岸定線観測地点図

表3 2025年6月～12月の土佐湾内水深別水温偏差

※平年値の算出は、1991～2020年

水深	2025年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
0m	+-	++	+-	+	++	+	++
10m	+-	+-	++	-+	++	++	++
20m	-+	--	--	--	+	++	++
30m	-+	-	-	---	+-	++	++
50m	-+	--	--	---	---	++	++
75m	-+	+-	-	---	---	++	++
100m	-+	+-	--	---	---	+++	+-
125m	-+	+	--	--	---	+++	-
150m	+-	+	+-	--	---	+	--
175m	++	++	+	+-	-	+-	+-
200m	+-	+-	+	-+	--	-	-

表4 2025年6月～12月の土佐湾内水深別水温

水深	2025年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
0m	23.20	27.13	28.46	28.80	27.24	24.80	22.36
10m	22.55	24.46	28.25	27.43	27.25	24.98	22.55
20m	21.71	22.39	25.11	25.26	27.03	24.97	22.50
30m	20.99	21.18	22.59	22.69	25.77	25.00	22.54
50m	19.66	19.66	19.61	19.12	21.81	24.92	22.47
75m	18.16	18.14	17.71	16.80	18.38	24.17	21.83
100m	16.86	17.31	16.66	15.47	16.50	22.32	19.31
125m	16.12	16.18	15.54	14.44	14.97	19.94	16.29
150m	15.43	15.30	14.77	13.61	13.44	16.40	13.53
175m	14.57	13.94	13.59	12.79	12.45	13.38	12.43
200m	13.68	12.83	12.59	12.19	11.48	11.23	11.42

表5 2025年6月～12月の土佐湾内水深別水温の平年偏差

※平年値の算出は1991～2020年

水深	2025年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
0m	0.22	1.87	0.37	1.16	1.38	1.26	1.36
10m	0.04	0.34	1.46	-0.02	1.35	1.43	1.49
20m	-0.25	-0.55	-0.11	-1.69	1.14	1.42	1.44
30m	-0.25	-0.67	-1.17	-3.38	0.04	1.46	1.49
50m	-0.10	-0.39	-1.42	-4.41	-2.90	1.60	1.58
75m	-0.10	0.01	-0.95	-3.40	-3.77	2.16	1.53
100m	-0.28	0.57	-0.53	-2.68	-3.28	2.56	0.33
125m	-0.09	0.67	-0.41	-2.13	-2.97	2.47	-0.90
150m	0.22	0.94	0.11	-1.32	-2.69	0.68	-1.99
175m	1.37	1.60	1.16	0.12	-1.05	0.51	-0.53
200m	0.49	0.55	0.86	-0.20	-1.70	-1.23	-1.29

### 3 定地水温

2025年7月は、県中部の浦ノ内、県西部の田野浦で「かなり高め」、その他の地点で「著しく高め」でした。

8月は、県西部の柏島で「平年並」、県東部の室戸岬、県中部の浦ノ内で「かなり高め」、その他の地点で「やや高め」でした。

9月は、県西部の田野浦で「平年並」、その他の地点で「やや高め」～「かなり高め」でした。

10月は、県西部の田野浦で「平年並」、その他の地点で「かなり高め」～「著しく高め」でした。

11月は、県東部の甲浦で「かなり高め」、県西部の田野浦で「やや低め」、その他の地点で「やや高め」でした。

12月は、県東部の甲浦で「かなり高め」、県西部の田野浦で「平年並」、その他の地点で「やや高め」でした。

表6 高知県沿岸定地水温の平年偏差階級

※平年値の算出は1991～2020年

観測点	甲浦	室戸岬	浦ノ内	田野浦	伊佐	柏島
25/7	+++	+++	++	++	+++	+++
8	+	++	++	+	+	+-
9	+	++	++	+-	+	++
10	++	++	+++	-+	++	++
11	++	+	+	-	+	+
12	++	+	+	-+	+	+

### 4 特異現象（2025年7月～11月）

#### <海況>

- ・9、10月の定線調査にて、水深30～150mで低水温の地点が複数点見られた。地点の特徴としては、大陸棚や海底谷付近が中心であった。

#### <漁況>

- ・マルアジ：200.9 t（前年同時期比2.21倍、過去5年同時期平均比1.71倍）
- ・イサギ：20.5 t（前年同時期比2.35倍、過去5年同時期平均比1.69倍）
- ・ウスバハギ：19.8 t（前年同時期比0.31倍、過去5年同時期平均比0.38倍）
- ・ゴマサバ：866.9 t（前年同時期比6.58倍、過去5年同時期平均比2.32倍）
- ・スルメイカ：27.3 t（前年同時期比7.32倍、過去5年同時期平均比2.02倍）
- ・ムロアジ：29.7 t（前年同時期比1.38倍、過去5年同時期平均比2.16倍）

### 【今後の見通し（2026年1月～6月）】

#### 1 黒潮

#### <流型>

黒潮はC型で推移し、その後N型基調になりそうです。

#### <四国沖の黒潮>

土佐湾沖の黒潮は、1月～6月は、接岸傾向で推移するものの、小蛇行の東進に伴い、一時的に離岸傾向となりそうです。

(根拠)

人工衛星による日本南方海域の海面高度データを利用した都井岬東方での黒潮流軸の動向の予測手法（FRA-ROMS）、気象庁の表層水温・海流実況図によっています。

## 2 沿岸の水温

土佐湾の沿岸表層水温は、1月から3月は「平年並」～「やや高め」で推移する見込みです。  
(根拠)

気象庁発表の「季節予報」(令和8年1月20日発表、予報期間：令和8年2月～令和8年4月)によると、2～4月の気温が、四国地方で「高い」確率が50%であること。

12月の土佐湾の水温は「平年並～かなり高め」であったことに加え、表層海水温は気象の影響を受けやすいこと、また、黒潮は接岸傾向で推移する予測であるため、「平年並」から「やや高め」になると予測しました。

## 漁況

### I さば類（ゴマサバ及びマサバ）

#### 【漁況経過（2025年7～11月）】

##### 1 高知県

(1)宿毛湾の中型まき網によるさば類水揚量は179.1トンで、前年比25.0%、平年比24.1%でした。

CPUEは0.4トン/日/統で、前年比18.2%、平年比24.8%でした。

9月に測定したさば類の尾叉長組成は、ゴマサバが27.0～38.9cm、マサバが8月に22.0～30.9cmでした。

(2)定置網（窪津・椎名2水揚地合計）によるゴマサバ水揚量は212.0トンで、前年比480.2%、平年比237.4%、マサバ水揚量は17.9トンで、前年比41.4%、平年比27.4%でした。

9月に測定したゴマサバの尾叉長組成は、20.0～26.9cmでした。

(3)立縄（足摺岬周辺）によるゴマサバ水揚量は7.7トンで、前年比84.3%、平年比11.5%で、CPUEは20.7kg/日/隻で前年比86.1%、平年比46.7%でした。また、当漁法による水揚量の主体はゴマサバでした。

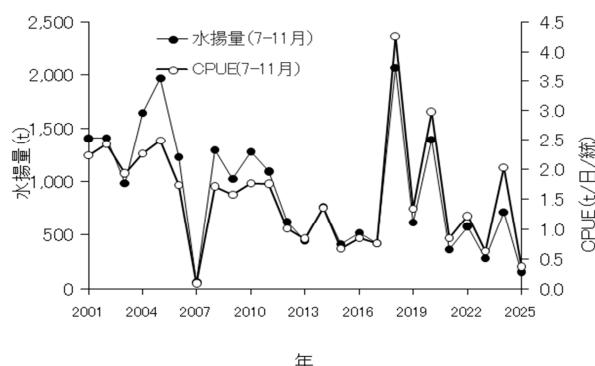


図4 宿毛湾中型まき網によるさば類水揚量及びCPUEの経年変化

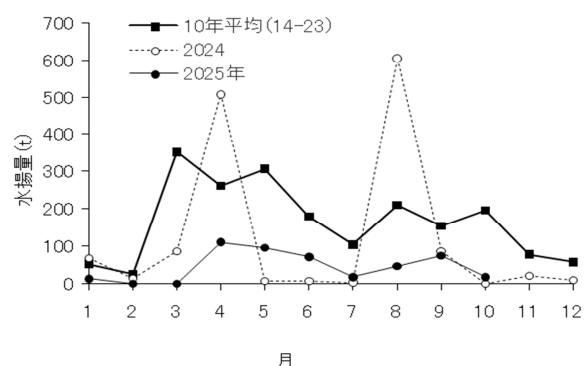


図5 宿毛湾中型まき網による月別さば類水揚量

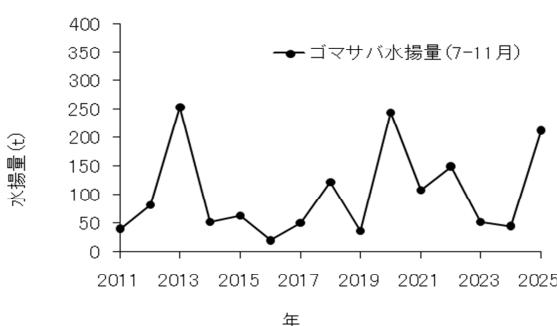


図6 大型定置網（窪津・椎名）によるゴマサバ水揚量の経年変化

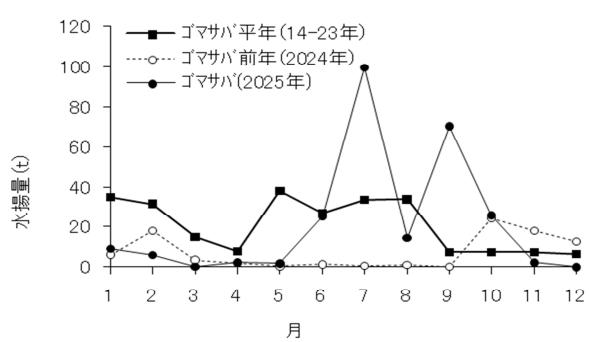


図7 大型定置網（窪津・椎名）による月別ゴマサバ水揚量

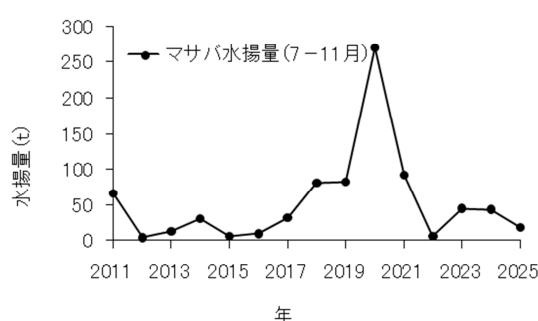


図8 大型定置網（窪津・椎名）によるマサバ水揚量の経年変化

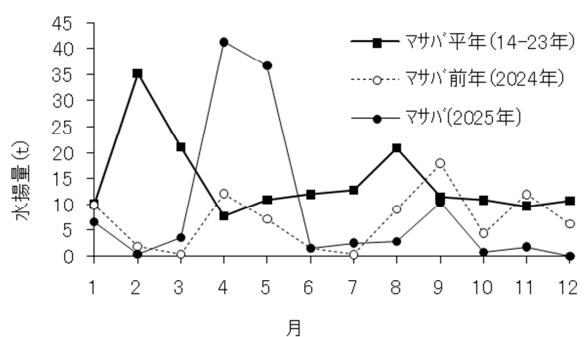


図9 大型定置網（窪津・椎名）による月別マサバ水揚量

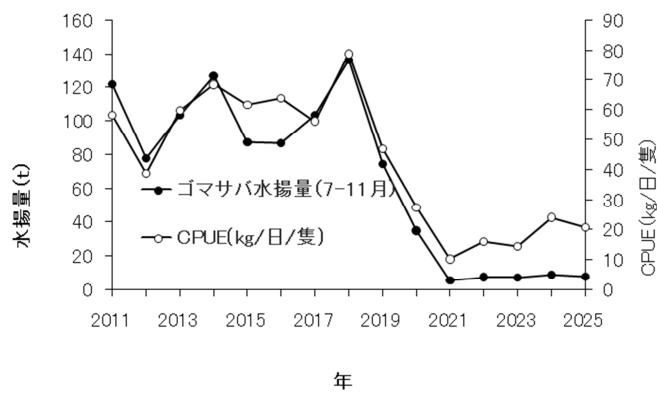


図10 立縄（土佐清水）によるゴマサバ水揚量及びCPUEの経年変化

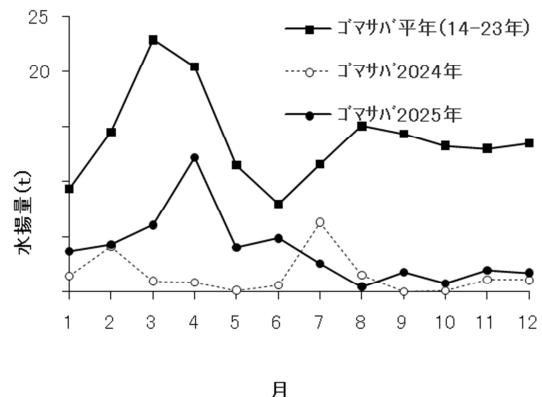


図11 立縄（土佐清水）による月別ゴマサバ水揚量

## 2 周辺各県

宮崎県：日向灘のまき網によるさば類の7～11月漁獲量は197.0トンで、前年比14.0%、平年比10.0%（過去5年平均）でした。

愛媛県：豊後水道（宇和海）のまき網によるさば類の7～11月漁獲量は、264.0トンで、前年比185.0%、平年比21.0%（過去20年平均）でした。

和歌山県：紀伊水道の2そうまき網による7～11月漁獲量は837トンで、前年比103.0%、平年比47.0%（過去10年平均）でした。熊野灘の定置網による漁獲量は27トンで、前年比13,349.0%、平年比433.0%でした。

### 【漁況予測（2026年1～6月）】

(1) 対象海域及び漁業種類：立縄（足摺岬周辺）

\* 定置網及び中型まき網の漁況は年変動が大きく予測は困難です。

(2) 漁獲対象年級群：3歳魚（2023年級群）から5歳魚（2021年級群）

(3) 来遊量：立縄漁では、前年並であるものの、平年を下回る。

（参考）前年（2025年）1～6月の立縄（足摺岬周辺）

ゴマサバ水揚量：35.1トン

説明：立縄漁で漁獲されるさば類のほとんどはゴマサバです。近年のゴマサバ水揚量は、上半期、下半期とも極めて低い水準で推移していることから、2026年上半期の水揚量も同様の傾向が続くと予測されます。

## II マアジ

### 【漁況経過（2025年7～11月）】

#### 1 高知県

- (1) 宿毛湾中型まき網の水揚量は、394.1トンで、平年比75%、前年比44%でした。銘柄別では、「ぜんご」（約100g未満）が183.2トンで、平年比45%、前年比37%、「あじ」（約100g以上）が210.9トンで、平年比174%、前年比377%でした。測定した魚体の尾叉長組成は7月で20.0～24.9cm、9月で12.0～14.9cmであり、それぞれ1歳魚（2024年級群）、0歳魚（2025年級群）が中心と思われます。
- (2) 窪津・椎名2定置網の合計水揚量は87.8トンで、平年比176%、前年比85%でした。測定した魚体の尾叉長組成は7月で10.0～14.9cmであり、0歳魚（2025年級群）が中心と思われます。

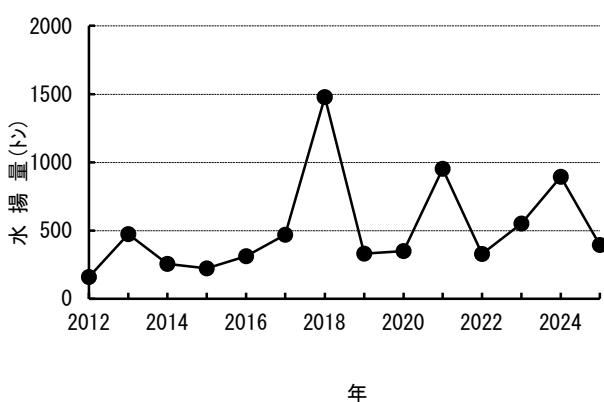


図 12 宿毛湾中型まき網によるマアジ水揚量の経年変化（7-11月）

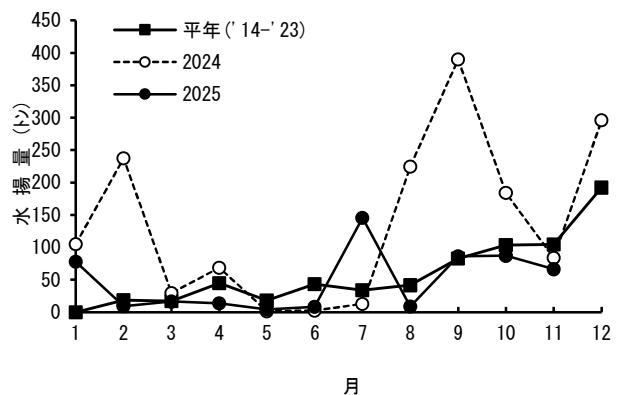


図 13 宿毛湾中型まき網による月別マアジ水揚量

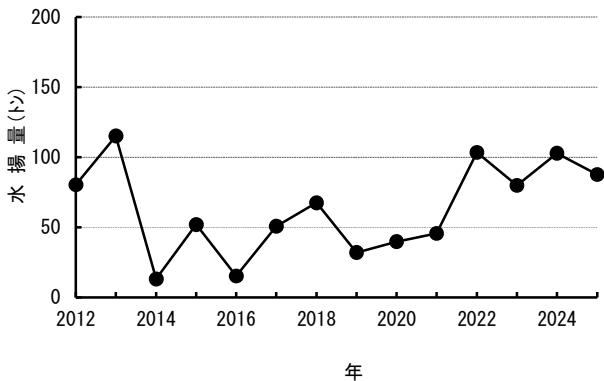


図 14 大型定置網（窪津・椎名の2水揚地合計）によるマアジ水揚量の経年変化（7-11月）

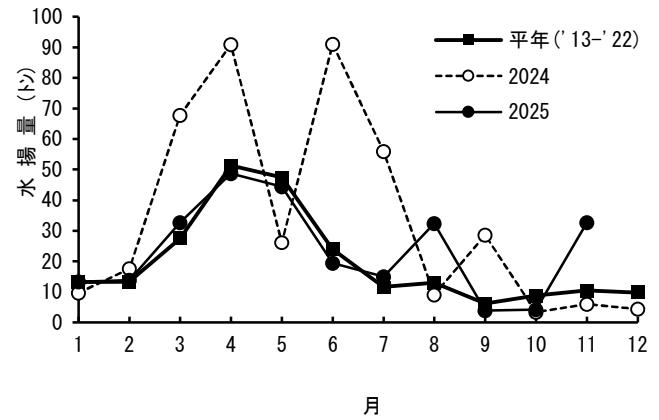


図 15 大型定置網（窪津・椎名の2水揚地合計）による月別マアジ水揚量

#### 2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による7～11月の水揚量は427トンで、前年比61%、平年（過去5年平均）比47%でした。

愛媛県：豊後水道（宇和海）のまき網による7～11月の水揚量は688トンで、前年比63%、平年（過去20年平均）比54%でした。

和歌山県：紀伊水道外域東部における中型まき網による7～11月の水揚量は523トンで、前年比359%、平年（過去10年平均）比99%でした。

大分県：豊後水道南部主要3港（鶴見、米水津、蒲江）（以下「南部」という。）のまき網による7～11月の水揚量は86.0トンで、前年比36.8%、平年比6.6%でした。

【漁況予測（2026年1～6月）】

(1) 漁獲対象：0歳魚（2026年級群）、1歳魚（2025年級群）

(2) 来遊量：前年を上回る。

(参考) 前年（2025年）1～6月の宿毛湾の中型まき網

「ぜんご」水揚量： 13.9トン

マアジ全体水揚量： 130.2トン

説明：宿毛湾中型まき網における下半期の水揚量と翌年上半期の水揚量には有意な正の相関がみられ

( $p < 0.01$ 、 $n=41$ 、 $R^2=0.39$ )、2026年の上半期の水揚量は252.7トンと予測され、前年の130.2トンより多いことから、来遊量は前年を上回ると予測される。

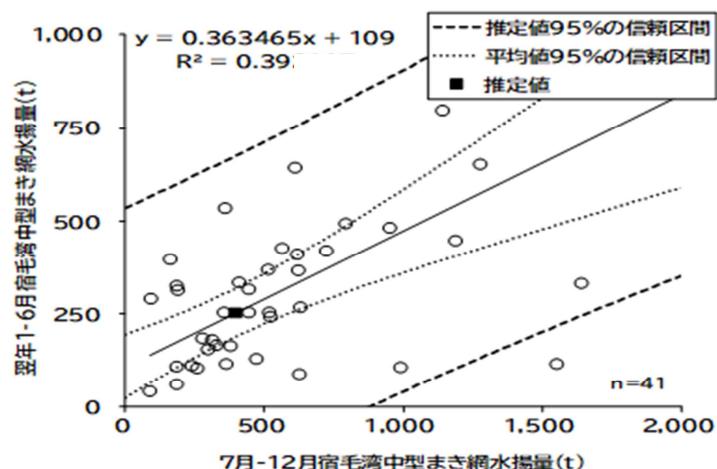


図 16 宿毛湾中型まき網におけるマアジの上半期水揚量と下半期水揚量との関係（1985～2025年）

### III マイワシ

#### 【漁況経過（2025年7～11月）】

##### 1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による水揚は1,248.3トンで平年比164%、前年比446%でした。
- (2) 定置網（窪津・椎名2水揚地合計）による水揚量は34.0トンで、平年比75%、前年比539%でした。

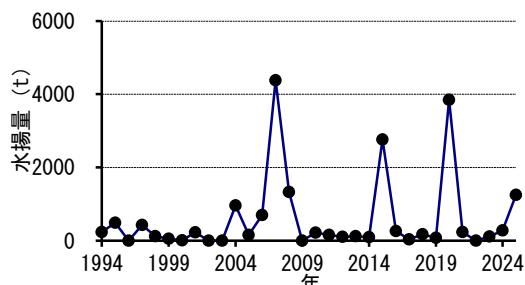


図17 宿毛湾中型まき網によるマイワシ水揚量の経年変化（7-11月）

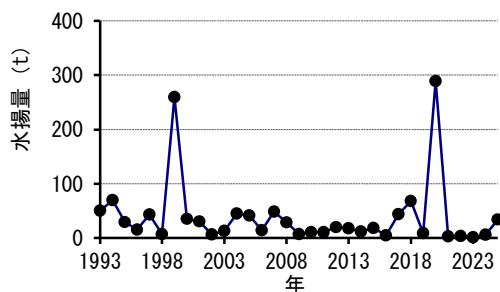


図19 大型定置網（窪津・椎名2水揚地合計）マイワシ水揚量の経年変化（7-11月）

##### 2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による7～11月の総水揚量は11,269トンで、前年比917%、平年比223%でした。

大分県：豊後水道南部のまき網による7～11月総水揚げ量は5,833.9トンで、平年比520.7%、前年比は280.2%でした。

愛媛県：豊後水道（宇和海）のまき網による7～11月の総水揚量は2,565トンで、前年比668%、平年比553%でした。

和歌山県：紀伊水道外域東部から熊野灘南部の1そうまくき網による7～11月の水揚はありませんでした。

#### 【漁況予測（2026年1～6月）】

- (1) 漁獲対象：0歳魚（2026年級群）、1歳魚（2025年級群）以上が漁獲されます。
- (2) 来遊量：前年を上回る

（参考）前年（2025年）1～6月のマイワシ水揚量

宿毛湾の中型まき網：311.6トン

定置網（窪津・椎名合計）：3.7トン

説明：宿毛湾における中型まき網の漁況から、上半期水揚の主体となる1歳魚（2025年級群）の来遊水準は、前年を上回って推移しています。定置網では、前年を下回る漁況です。しかし、まき網では平年を上回って推移しているため、来遊量は前年を上回ると予測されます。

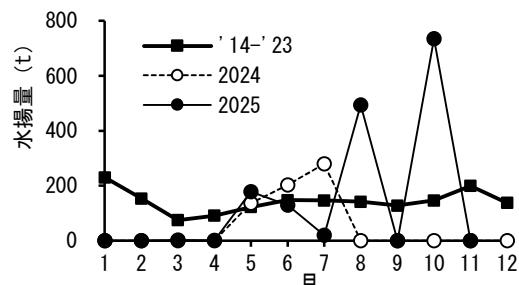


図18 宿毛湾中型まき網による月別マイワシ水揚量

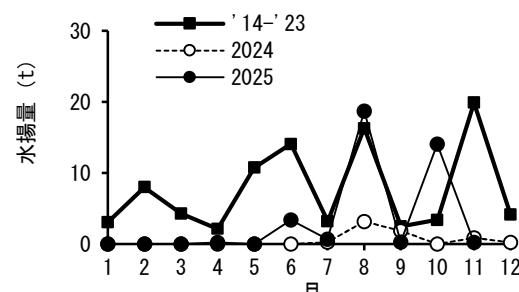


図20 大型定置網（窪津・椎名2水揚地合計）による月別マイワシ水揚量

## IV カタクチイワシ

### 【漁況経過（2025年7～11月）】

#### 1 高知県

(1)宿毛湾の中型まき網による水揚量は11.1トンで、平年比3%、前年比1%でした。

銘柄別では、未成魚・成魚の銘柄「たれ（銘柄の被鱗体長は概ね6.5cm以上）」は実績なし、幼魚「どろ（銘柄の被鱗体長は概ね4.0cm～6.5cm）」が11.1トンで、平年比16%、前年比63%でした。

(2)宿毛湾の小型まき網による水揚量は0.01トンで、平年比0.02%、前年比1.13%でした。銘柄別では、未成魚・成魚「たれ」は実績なし、幼魚「どろ」が0.01トン、平年比0.02%、前年比1.2%、稚魚「かえり（銘柄の被鱗体長は概ね3.5cm～4.0cm）」が実績なしでした。

(3)定置網（窪津・椎名2水揚地合計）による水揚量は0.1トンで、平年比1%、前年比3%でした。

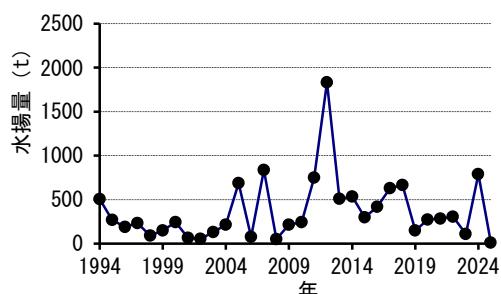


図21 宿毛湾中型まき網によるカタクチイワシ水揚量の経年変化（7-11月）

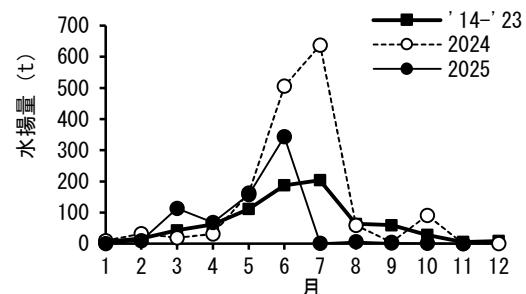


図22 宿毛湾中型まき網による月別カタクチイワシ水揚量

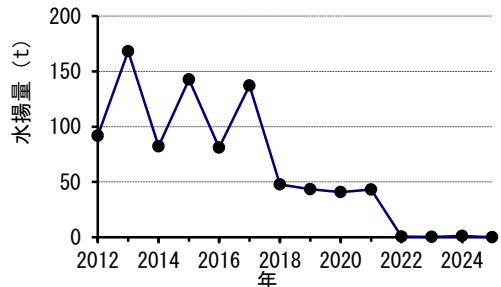


図23 宿毛湾小型まき網によるカタクチイワシ水揚量の経年変化（7-11月）

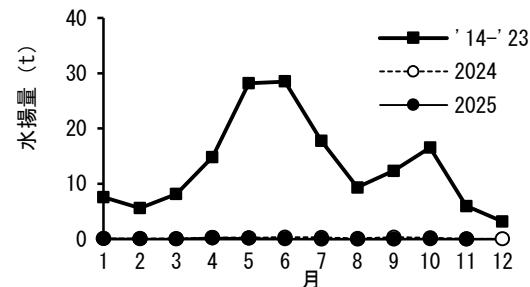


図24 宿毛湾小型まき網による月別カタクチイワシ水揚量

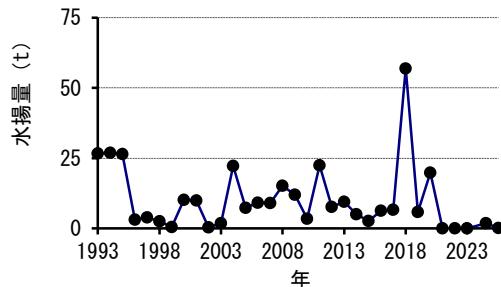


図25 大型定置網（窪津・椎名2水揚地合計）によるカタクチイワシ水揚量の経年変化（7-11月）

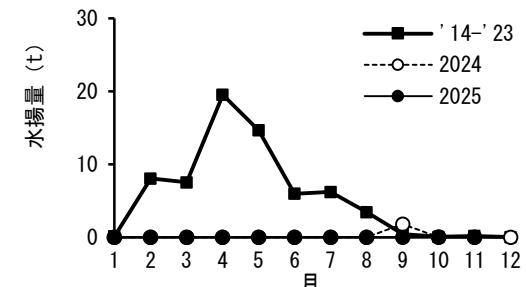


図26 大型定置網（窪津・椎名2水揚地合計）による月別カタクチイワシ水揚量

## 2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による7～11月の総水揚量は243トンで、前年比16%、平年比32%でした。

大分県：豊後水道南部のまき網による7～11月の総水揚げ量は40.1トンで、前年比35.7%、平年比3.3%でした。

愛媛県：豊後水道（宇和海）のまき網による7～11月の総水揚量は717トンで、前年比27%、平年比23%でした。

#### 【漁況予測（2026年1～6月）】

(1) 漁獲対象：0歳魚（2026年級群）、1歳魚（2025年級群）以上が漁獲されます。

(2) 来遊量：前年を下回る。

(参考) 前年（2025年）1～6月のカタクチイワシ水揚量

宿毛湾の中型まき網：692.2トン

宿毛湾の小型まき網： 0.6トン

定置網（壅津・椎名合計）：0トン

説明： 本県における宿毛湾の中型まき網、同小型まき網及び定置網（壅津・椎名）の7～11月の漁獲量は前年比、平年比を大きく下回っていることから、来遊量は前年を下回ると予測されます。

## V ウルメイワシ

### 【漁況経過（2025年7～11月）】

#### 1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による水揚量は2,656.0トンで、平年比131%、前年比188%でした。
- (2) 土佐湾中央部（宇佐）の多鈎釣による水揚げはありませんでした。
- (3) 定置網（窪津・椎名2水揚地合計）による水揚量は33.7トンで、平年比41%、前年比64%でした。

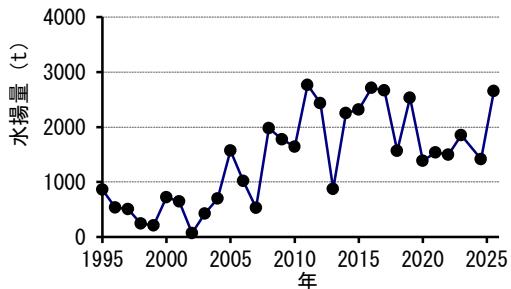


図27 宿毛湾中型まき網によるウルメイワシ水揚量の経年変化（7-11月）

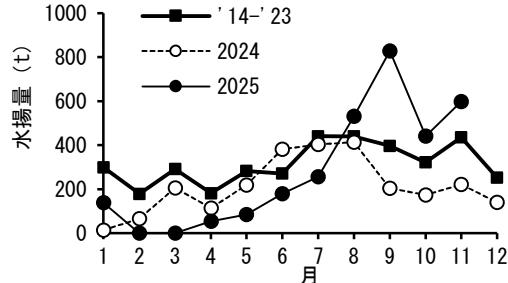


図28 宿毛湾中型まき網による月別ウルメイワシ水揚量

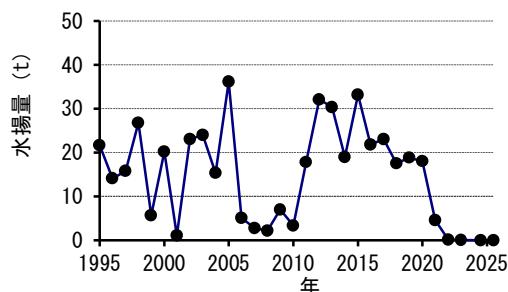


図29 宇佐の多鈎釣によるウルメイワシ水揚量の経年変化（7-11月）

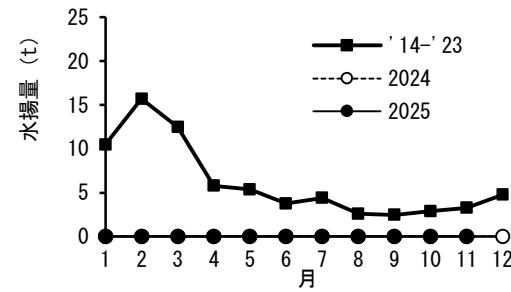


図30 宇佐の多鈎釣による月別ウルメイワシ水揚量

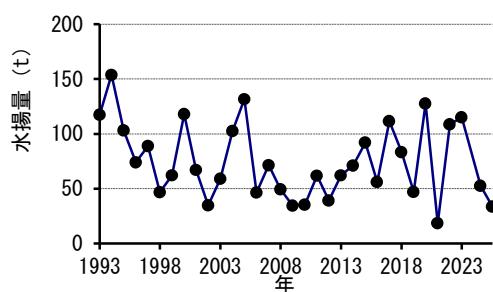


図31 大型定置網（窪津・椎名2水揚地合計）によるウルメイワシ水揚量の経年変化（7-11月）

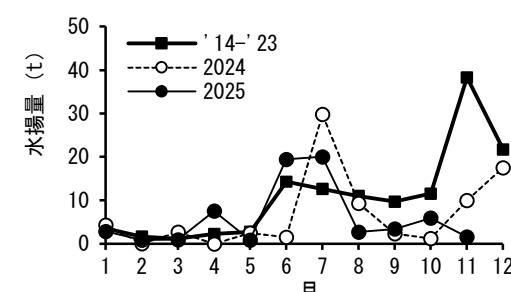


図32 大型定置網（窪津・椎名2水揚地合計）による月別ウルメイワシ水揚量

#### 2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による7～11月の総水揚量は6,789トンで、前年比127%、平年比85%でした。

大分県：豊後水道南部のまき網による7～11月の総水揚量は698.3トンで、前年比50.3%、平年比65.7%でした。

愛媛県：豊後水道（宇和海）のまき網による7～11月の総水揚量は2,294トンで、前年比139%、

平年比 78% でした。

#### 【漁況予測（2026 年 1 ~ 6 月）】

- (1) 漁獲対象：0 歳魚（2026 年級群）、1 歳魚（2025 年級群）以上が漁獲されます。
  - (2) 来遊量：前年を上回る。
- (参考) 前年（2025 年）1 ~ 6 月のウルメイワシ水揚量  
宿毛湾の中型まき網：458.4 トン  
多鈎釣漁（宇佐）：0 トン  
定置網（壅津・椎名合計）：32.5 トン

説明：宿毛湾中型まき網における上半期の水揚量と前年の7月～12月期の水揚量には有意な正の相関がみられる( $p < 0.01$ ,  $n=47$ ,  $R^2=0.57$ )。予測式から2026年上半期の水揚量は、3,083.2トンと計算され、前年の458.4トンより多いことから、来遊量は前年を上回ると予想されます。

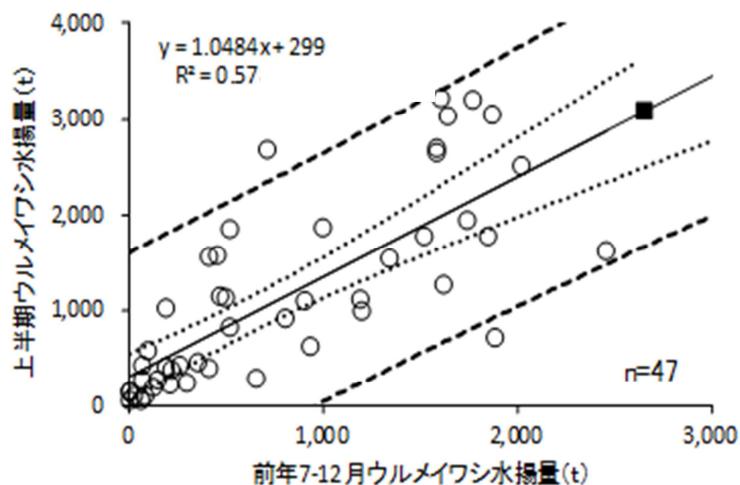


図 33 宿毛湾中型まき網におけるウルメイワシの上半期水揚量と前年 7~12 月水揚量との関係（1978 ~2025 年）

## VI シラス

### 【漁況経過（2025年7～11月）】

#### 1 高知県

- (1) 機船船曳網（安芸地区4水揚地・春野町・錦浦・田野浦 7水揚地合計）による水揚量は33.9トンで、平年比15%、前年比50%でした。魚種組成は、1月～2月がウルメイワシ主体、3月ウルメイワシ及びマイワシ主体、4～11月がカタクチイワシ主体、12月はカタクチイワシ及びウルメイワシ主体でした。
- (2) 宿毛湾の小型まき網による水揚げはありませんでした。

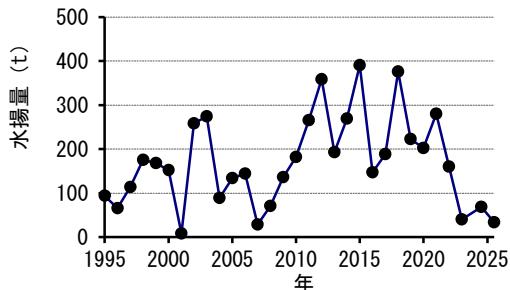


図34 機船船曳網（安芸地区、春野町、錦浦、田野浦計7水揚地）によるシラス水揚量の経年変化（7-11月）

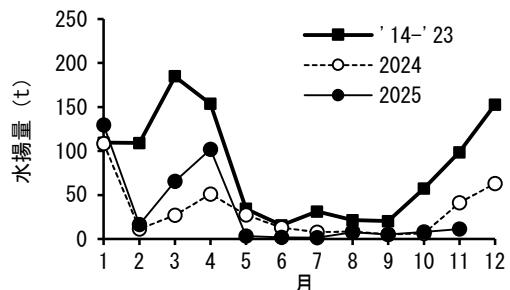


図35 機船船曳網（安芸地区、春野町、錦浦、田野浦計7水揚地）による月別シラス水揚量

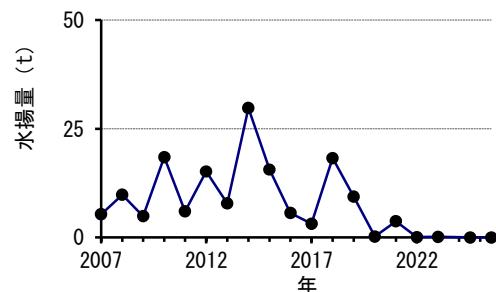


図36 宿毛湾小型まき網シラサ水揚量の経年変化（7-11月）

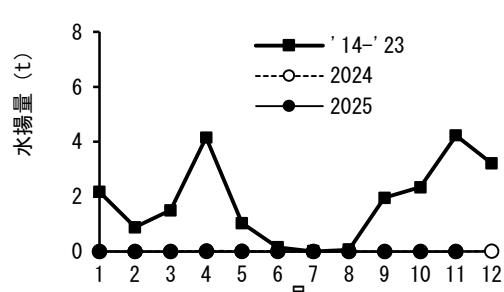


図37 宿毛湾小型まき網シラサ月別水揚量

#### 2 周辺各県の経過

- 宮崎県：7～11月の総水揚量は57トンで、前年比23%、平年比13%でした。  
大分県：佐伯湾における7～11月の総水揚げ量は93.3トンで、前年比88.5%、平年比61.1%でした。  
大阪府：大阪湾における7～11月（主漁期7～11月）の水揚量は128.0トンで、前年比96%、平年比72%でした。

### 【漁況予測（2026年1～6月）】

- (1) 漁獲対象：0歳魚（2026年級群）
- (2) 来遊量：シラスの来遊には、産卵親魚の産卵状況、他海域からの卵稚仔の輸送、餌料、漁場形成に影響する沿岸域の海洋環境等が複雑に影響することから、現時点では長期予測を行う根拠を見いだせていません。